2021/3/18

世界の水、日本の水
ーなぜ、水を考えるのか？ー
セミナー参加報告

日本 GIF/佐藤美紀

日時：2021 年 3 月 10 日　16:00～17:00
開催形式：オンライン(後日視聴)
主催：特定非営利活動法人 日本水フォーラム

世界の水問題　最新情報
日本水フォーラム　ディレクター　伊藤和彦氏

世界の水問題として、水の衛生、水関連の災害、水不足、水質汚濁などがある。最近では感染症対策として、安全で豊富な水が必要になっている。

世界で洪水による被災者が約 17 億人で、そのうちアジア諸国が 15 億人。渇水による被害を受けている人は 14.3 億人で、主に東アフリカで被害が多い。

水質汚濁は、収入が低い国ほど排水処理をしていない関係で、収入と関係性がある。

世界の水、日本の水　ーなぜ水を考えるのか？ー
日本水フォーラム　代表理事　竹村　公太郎氏

20 世紀は石油の世紀であったが､21 世紀は水の世紀になると思う｡地球規模の環境悪化、エネルギー資源の制約、気象の凶暴化が起こるだろう。

地球の危機は、すべて「水の姿」となって現れると思っている。例えば洪水、旱魃、水質汚濁、海氷融解、海面上昇、氷河融解、水需要増大など。

砂漠化というと世界の問題のように感じるが、実は日本においても明治から昭和の間に全国で「はげ山」がたくさん出来た。大企業が伐採したわけでなく、一般の人達がエネルギー源として木を大量に伐採した。その結果、土砂が流れ大洪水を引き起こした。

かつては多摩川や隅田川には排泄物や排水が垂れ流しで、汚濁だけでなくにおいも酷かった。

世界での枯渇する湖沼としては、アラル海が有名である。アラル海の縮小は、気候変動でなく人間が綿花栽培のために水を採取した事により起こった。その綿花は何に使われているかと言うと、世界のファストファッションの原料となっている。アラル海に負荷を与えながら、我々は文明を享受している。

中国の渤海はかつて魚の宝庫であったが、今は工業地帯の排水がそのまま流れ込んだ事により有害金属が蓄積し､｢死の海｣となってしまった｡この工業地帯で作っているのは 100 円ショップの商品等であり、やはり我々は環境に負荷をかけて安い大量消費文明を享受している。

ハンバーガーを 2 個作るのに、バスタブ 10 杯分の水が必要だと言われている。アメリカのオガララ帯水層では、地下水を汲み上げ牛の餌になる穀物を作っているが、そこの地下水がどんどん減っている。我々はその水によって作られた食料を食べているのである。

日本で 1 年間に使われている水は、農業用水が 572 億トン、工業用水が 134 億トン、上水が 164 億トンだが、バーチャルウォーターが 640 億トンで、これらは輸入されている。つまり日本は「瑞穂の水豊かな国」ではなく、水の自給率は 60%に過ぎない。今や日本は世界と密接につながっており、分離する事は出来ない。

世界においては「水紛争」が頻繁に起こっており、国際河川があるところには必ず紛争がある。「ライバル」の語源は「リバー」である事からも分かる通り、同じ川の水を使って生活している人は、仲間ではなく「敵」である。誰かが得をしたら、誰かが損をする。

日本は国際河川がなく、喧嘩する相手がいない。水に関しては、世界中の国とフラットな関係を結べる非常に恵まれた国である。

しかし日本国内において、かつては全国すべての川で「水争い」があった。武田信玄が作ったと言われている「三分一湧水」という水を分かち合う装置があるが、このように「水を分かち合う」という装置は世界でも例がない。この装置は全国の大名や江戸幕府も真似をした。

昭和時代では 1964 年の東京大渇水など、水インフラの整備が追いついていなかった。人類が造る巨大構造物と言われるダムを創って水を貯めているが、ダムがなければ雨で降った水は「日帰り」で海に帰っていく。水道整備は女性を過酷な水回りの労働から解放した。ジェンダー問題の解決も、水インフラの整備が大きな役割を担っていると考えている。

水インフラ整備を政府と民間が力を合わせて行い、ようやくここまできた。日本国の政府としては平成 10 年以降財政が厳しくなり、民間の役割が大きくなった。今後は税金だけに頼るのではなく、民間の力で水へ貢献する事が必要だ。

<u>質疑応答</u>

Q：日本も、今後水不足になっていくのか。何に備えたらよいのか。

A：日本の人口は今後減っていく見込みで、食料の自給は可能になるが、電力不足が問題となるだろう。5G の世界になると電気がものすごく必要となる。しかし日本の山岳地帯の流域には水があり、ポテンシャルがあるので、それを世界に発信できる。日本では水不足がないように色々と考えられている。

Q：水インフラの老朽化について、どうしたら良いか。

A：行政でやるのは財政的に困難になる。民間の力を借りるしかない。今後インフラをしっかりやっていくには、国家予算や地方自治体の予算では無理で、民間の豊かな資金で維持管理していくことが必要。

Q：良いダム、悪いダムはあるのか。

A：ダムは、それまでそこにあったコミュニティが無くなってしまうから、インパクトが大きい。しかしダムがなければ日本の水は「日帰り」の川が多い。日本にはどうしてもダムが必要。
徳川家康が江戸に最初に作ったのはダムで、虎ノ門に溜池を作った。人々が生活していくためにはダムが必要ということを、我々は説明しなくてはならない。

Q：アフリカなどにおいて、産業や農業を育てていく中で、地下水を多く使う事になる。経済と水資源をどのようにバランスをとれば良いのか。
A：地下水は公の水と言われているが、かつては地主が掘ればその人の権利となっていた。しかし地下水は流れているし、目に見えないので解決が難しい。日本では、地下水をこれくらい汲み上げても大丈夫というのが分かるようになった。地下水の利用を、地域ごとに見える形で決めていくべき。それを超えない範囲であれは、地下水は大いに利用すべき。

以上